



みんなで守り育てる 藻場・干潟づくり



自分たちで作った
アマモの種子

あいら藻場・干潟再生協議会

私たちの住む始良市は、鹿児島県の真ん中にあり、利便性が高く、目の前の桜島を眺め、きらめく海と緑豊かな山におおわれた自然豊かな街です。漁業は一本釣りや刺し網を、養殖ではブリ・ヒトエグサ・ワカメをしています。かつての浜はアマモが繁茂しアサリが豊富にありましたが、平成10年頃より激減して、いまではアサリはほとんどいない状態です。私たちは、この原因を魚の食害、海草のタネ不足、ヨシ原の減少が原因と考え、漁業者とNPOが中心となって保全活動に取り組んでいます。



名称：あいら藻場・干潟再生協議会
(平成25年5月16日設立)
構成員：錦海漁業協同組合
NPO くすの木自然館 その他
177名

年間スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
藻場の保全			↔				←	→				
干潟等の保全			←	→								
ヨシ帯の保全											↔	
海洋汚染等の除去							←	→				



干潟の耕うん



ナルトビエイの駆除
ナルトビエイは年間1.6tを駆除しています

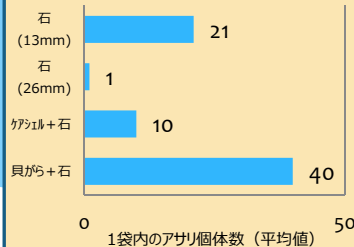


浮遊堆積物の除去

稚貝等の沈着促進 (アサリの天然採苗・育成)



左の写真にある様々な活動により、干潟の環境が整ってきました。さらに、上の写真の天然のアサリ稚貝の沈着を促すための試験を行っています。



上グラフのとおり袋に詰める材質の違いによって、稚貝の沈着に差があることがわかりました。現在は、設置場所や時期、水深などを変えて、効果の高い場所での稚貝等の沈着促進対策を検討しています。



活動エリア

アマモの播種



これまでアマモシートを使ってアマモの播種を行ってききましたが、アマモ場の維持・拡大がみられません。そこで、H26年度からは、自分たちで種をつくり、ガーゼ法や紙ねんど法を試してみました。来年はこの成果をみて、現地にあった方法で活動したいと考えています。アマモの種子の管理は、岡山県の方法を参考に、刈り取った花枝を袋に入れて水槽で管理しました。



6月に花枝を袋に詰め、水槽の中に10月まで管理しました。

種の詰まったガーゼと紙粘土をダイバーが海底に埋めます。

活動組織：あいら藻場・干潟再生協議会 代表：松田 繁美
連絡先：〒899-5221 鹿児島県始良市加治木町港町184-1 錦海漁業協同組合内
TEL0995-63-2100 担当 中原

